



# 学校だより

6月号

横浜市立六つ川台小学校

令和元年5月31日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>  
E-mail:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp

## みんなで作る運動会

副校長 薄田 秀明

「平成」から「令和」になり、10連休明けから運動会の練習が本格的に始動しました。応援団の子どもたちは、朝練習に参加し、おなかに力を込めて声を出したり、太鼓のリズムに乗って手拍子を合わせたりと張り切って活動している姿がとても印象的でした。リレー選手になった子どもたちは、練習日の朝から体育着に着替え、休み時間の練習が待ち遠しい気持ちが伝わってきました。本校は、2学年ずつ合同で演技や団体競技に取り組んでいます。小学校最後の運動会の6年生は、「ソーラン節」の実行委員会を結成し、自分たちで演技の確認や5年生に演技を教え、隊形までも実行委員の子たちで行っていました。「自分たちのソーラン節をつくろう」という意気込みを感じました。その意気込みに5年生は応えようとしている真剣な眼差しが、来年へ期待させてくれます。3・4年生の「エイサー」は沖縄の伝統的な舞踊で、沖縄の独特なリズムに合わせ、動と静の動きを意識した演技が特徴です。その演技に現代的な動きを取り入れ、子どもたちが楽しそうに演技していました。1年生は、小学校初めての運動会。全校ダンスに準備運動、2年生との演技、チェッコリ玉入れ、地域の方との鈴割り、徒競走など種目が多いのにも関わらず、いつも笑顔で楽しそうに全力で取り組んでいたのに感心しました。そんな1年生を成長した2年生がしっかりとリードして、入場するときは1年生の手を握りながら、優しい微笑みで声をかけていました。運動会という一つの行事が、子どもたちの意識を変えたり、協力する姿がみられたりと子ども同士で成長していきます。

来年は、東京オリンピック・パラリンピックが催されます。スポーツを通して平和な世界を築いていく祭典です。勝負を超えた人間同士の強い絆や支え合う姿などが、観るものに感動を与えるのかもしれない。運動会もそんな感動をもらえる機会でした。

運動会という舞台を様々な方に支えていただきました。5・6年生のソーラン節の衣装の法被や児童席に設置したテントを地域の皆様が快く貸してくださいました。地域の方々が運動会前から暑い日が続いたことを心配していただいたこととお聞きし、本校の子どもたちを思う強い気持ちが伝わってきました。運動会後もPTA会長の呼びかけに多くの保護者の方が、片づけのお手伝いをしてくださいました。先ほどまで子どもたちが躍動していた会場と思えないほどのスピードで、片づいていく様子は圧巻でした。大変にありがとうございました。

地域や保護者の皆様のそのような思いやお姿から、「ヘルプシーキング」という言葉が思い浮かびました。「援助希求」と訳するそうです。『人に助けってもらうことはいいことだ』という考えを持つことが大切で、安心して助け合える関係は、一人一人に心の余裕を生み出し、自分が持っている力を引き出せるということなのだそうです。今回の運動会は、まさしくみんなが助け合うことで、子どもたちが安心して取り組める環境をつくる好循環を生み出したと思います。

誰も一人では生きていけないのだから、「助けて」と言うのは、恥ずかしいことではなく、むしろ良い関係を築いていけるきっかけになるのだと思います。